



鴻巣市立鴻巣南中学校 学校だより

清正明進

◎学校教育目標「志を立てて 未来を拓く 南中生」

～自ら学ぶ確かな学力・思いやりのある豊かな心・たくましく鍛えたからだ～

<第2号>

令和6年5月1日

☎048-542-2861

在籍生徒数

227名



「一生懸命がかっこいい」と思える感性を磨く～良き環境での成長を～

校長 宮野 和幸

満開だった桜も若葉の茂るころとなり、さわやかな5月の風が吹き始めました。本校の生徒たちは、新しい先生や友達にもずいぶんと慣れ、毎日生き生きと学校生活を送っています。

このような中、学校全体としては、今月の5月29日(水)に開催予定の第41回体育祭に向けて、学年・学級・学校全体で、いよいよ練習に力が入ってきました。体育の授業や放課後練習によって、個々・ペア・グループ・学級等の技能がそれぞれ向上し、一体感やまとまりのある活動も随分と磨きがかかってきたように思えます。体育祭本番でのそれぞれでの活躍が大変楽しみです。

さて、今年の体育祭のテーマは「力戦奮闘 ～ 繋げ 想いと伝統を ～」となりましたが、「力戦奮闘」という意味を色々と調べてみると、以下のような解釈があるようです。

「力戦奮闘(意味) → 勇気をふるって力いっぱい戦うこと。一生懸命、努力していること。」

力戦とは → もっている力すべてで戦うこと。奮闘とは → 気持ちを奮い立たせて努力すること。

実に、上記のキーワード一つ一つの言葉からは、熱い思いがこちらにも良く伝わってきます。話は変わりますが、今年の1月から3月にかけて、TBS系列で「不適切にもほどがある！」というテレビドラマが世間から注目を集めました。これは、宮藤官九郎氏の脚本で、コンプライアンスの厳しい現在の令和の時代(2024年現在)と、そうではなかった昭和の時代(1986年頃)を舞台に、登場人物がタイムスリップを繰り返すという話の展開の中で、それぞれの時代を比較しながら、相互の時代について色々と考えを改めていく登場人物の姿や、物事の価値観や人と人とのつながりや在り方等について、多岐にわたり色々と考えさせるといった内容等が存分に盛り込まれた人間味あふれるコメディドラマでした。

個人的に振り返ってみると、過去と現在の時代には様々な違いがあるものの、私自身はそれぞれの時代を実際に生きてきましたし、様々な経験や体験を積み重ねてきました。

今回の体育祭のテーマに盛り込まれている「一生懸命」という言葉についてですが、色々と考えてみると、昔も今も一生懸命にやることを馬鹿にするような風潮が、もしかしたらあるのかもしれないと感じます。しかし、本校の生徒の皆さんには、体育祭を含めた様々な場面や活動において、学校全体で「一生懸命に頑張る姿」を賞賛できる感性をもってほしいと思っています。

人が何か一生懸命に頑張る、または頑張ろうとする姿は実に素晴らしいものです。

一生懸命に取り組むことで、自分にしか味わえない気持ちや感情が味わえる、自分の力や実力を個人差はあるものの確実に伸ばすことができる、たとえ試合等の勝負に負けたとしても得るものが確実にある、自分自身や周囲の人にも感動を味わえるまたは感動を与えることができる等、大変大きな意味が存在するものと考えます。

体育祭を含めた様々な学校行事、部活動や習い事、様々な各種発表会等において、一生懸命に取り組める、そしてお互いに賞賛できるような人間性や感性をぜひ高めて欲しいものです。

ただ単に、1位になったからかっこいいのではなくて、勝ったらかっこいいのではなくて、うまくできたからかっこいいのではなくて、一生懸命な姿こそが一番かっこいいのです。

私は、そんな生徒の皆さんの姿をこれからも広く応援していきたいと考えています。

改めて、この1年間、「自分自身の良さ」に磨きをかけるとともに、「自分(たち)の頑張るべきこと」を明確にして、個々の生徒が、さらには学級、学年、学校全体が、魅力あふれる人間関係の環境下の中で、心身ともに大きく成長してくれることを切に願っています。

保護者・地域の皆様方におかれましても、子どもたちのよりよい成長のために、本校の様々な教育活動へのご支援とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。